



慶應義塾大学ビジネス・スクール

デシジョン・ツリー分析

1. 意思決定分析とは何か

企業活動はさまざまな意思決定(decision making)によって構成される。この意思決定においては必ず何らかの選択(choice)がなされるが、それぞれの選択肢がどのような結果をもたらすか不明であるという意味での不確実性がある。企業で行われる意思決定の例は無数にあるが、具体的には設備投資、研究開発、価格設定等を企業の代表的な意思決定とすることができる。このような不確実な意思決定の分析方法にはさまざまなものがあるが、それらを次の2つの基準で分類することができる。第1の基準は分析方法が定量的方法か定性的方法かという区別である。定量的分析とは意思決定における不確実性を確率等の数値で置き換え、さらに意思決定における選択肢を数量化して判断する方法と考える。また、定性的分析とは定量的方法を採用しない分析であるとする。第2の基準は分析の目的による分類である。すなわち意思決定の分析方法には現実に意思決定がどのように行われるかを明らかにすることを目的とする「叙述的分析(descriptive analysis)」と、実際に行われる意思決定の質を高めることを目的とする「規範的分析(normative analysis)」がある。定量的方法を採用し、現実の企業の意思決定の質を高めるために利用される分析を「意思決定分析(decision analysis)」あるいは「意思決定科学(decision science)」と呼ぶことがある。本報告でもこの定義に従うことにする。したがって、定量的方法を基礎としない歴史的叙述や事例報告等の分析方法や、現実の意思決定者の意思決定の質の向上に資するために使用されない分析方法は意思決定分析あるいは意思決定科学には含まれないことになる。

本報告で取り上げる「デシジョン・ツリー分析(decision tree analysis)」は1960年代にアメリカの経営者教育において重視されるようになった意思決定分析方法で、上記の分類では定量的方法を基礎とし、現実の意思決定者の意思決定の質を高めるために使用される規範的分析であり、この

本教材は慶應義塾大学大学院経営管理研究科の姉川知史が教材として作成した。内容は姉川知史『知的財産権紛争の意思決定分析ーデシジョン・ツリー分析の有効性』日本機械輸出組合、1995、1章、3章を抜粋、編集した。本教材の全部あるいは一部を許可なく複写、転載、使用することを禁ずる。(c)2001, Anegawa, Tomofumi